

2023年2月

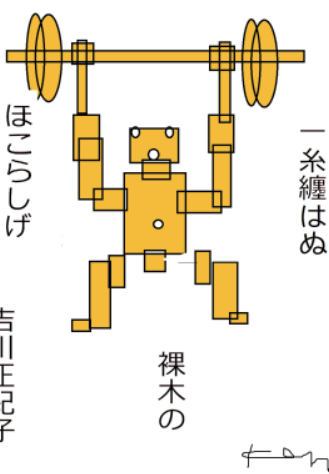
■今月の特選句



久々にポスト満腹賀状食べ

稲葉純子

郵便ポストを上手く擬人化したね。最近はや賀状をやめてメールにする人も多いから、「メールには嫌悪感抱くポストかな」というところだろう。



一糸纏はぬ裸木のほころしげ

吉川正紀子

「一糸纏はぬ裸」となれば艶めかしいが、葉を落とした木のことである。堂々と逞しい幹なんじゃろう。拙句に「恋の猫一糸纏はぬ声を出し」がある。



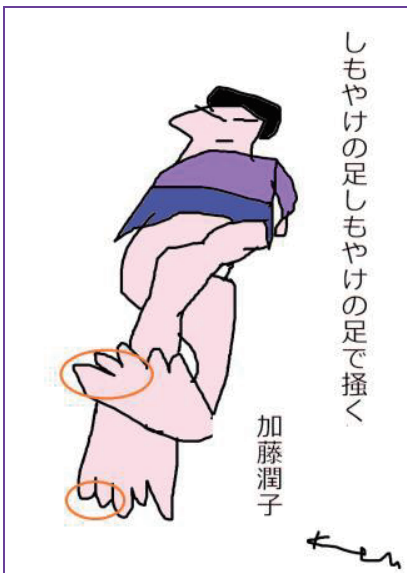
玄関に十四五足もありお正月

花岡直樹

子規さんの鶏頭の句の「本句どり」だね。草履や下駄、散らばった子どもの靴の映像も浮かぶ。子規さんも、きっとクツクツと笑っとるじゃろう。

■今月の特選句

2023年2月



しもやけの足しもやけの足で掻く

加藤潤子

「しもやけ」を繰り返したことで、痒くて何度も掻く感じが出ている。やさしい作り方ではあるが読者の記憶の中にある「痒い」が共感を呼ぶ。



吾の逝く日あると思ふよ初暦

ほりもとちか

読んでぎくりとした。しかし、俳句は正直が一番。そして、「ちらと感じた」瞬間を描く。だから俳句で「事柄」はダメ。精神の記録ツールなんだ。



初接吻 出会ひ頭の獅子舞と

桑田愛子

新年そうそう「接吻」とは楽しい句である。しかし、相手が獅子舞の獅子だから、すぐに離れないと噛まれるかもしれないね。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

<p> 老いし身に挑む夢ほし去年今年 ・・・・宇宙旅行のプランを練るか </p>	井口夏子
<p> 蟹を剥く夫婦喧嘩もノーサイド ・・・・サッカー見ながら蟹を食べよう </p>	柳 紅生
<p> これという打つ手もなくて懐手 ・・・・思ひついたら手を取り出すか </p>	白井道義
<p> 寺から寺へ途中焼肉冬遍路 ・・・・栄養つけてまた歩きだす </p>	高須賀溪山
<p> 雑巾のねぢらるるまま氷りたる ・・・・煮しめたやうな色をしたまま </p>	工藤泰子
<p> 支度ととのえ徘徊の春を待つ ・・・・連絡先を書いたメモもね </p>	堤 宏文
<p> 泣きながらも食べられる煮大根 ・・・・泣いてなければ一本丸ごと </p>	浜田イツミ
<p> コロナ禍に恵方道とてなかりけり ・・・・人の少ない場所が恵方よ </p>	久松久子
<p> それなりの老いを持ち寄る年忘 ・・・・持ち寄りし老いまた持ち帰る </p>	大林和代
<p> 「齢だから」便利な言葉冬籠 ・・・・ときどき使ふ若気の至り </p>	竹下和宏
<p> 宝籤^{クジ}今年最後の鮠^{イタチ}の尻 ・・・・それは臭かるジャンボな放屁 </p>	伊藤浩睦
<p> 断面は木の履歴書や風光る ・・・・老翁なればおつむり光る </p>	岡田廣江
<p> 二時間は余分に寝れるお正月 ・・・・時間を浪費するぜいたくよ </p>	上山美穂

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

大年の音やあれこれしていたる	相原共良
数の子のプチプチが好き食べ尽くす	相原共良
歌留多とる十八番(おはこ)の札に裾乱し	相原共良
神様もランクがあつてうそ寒し	青木輝子
初競りに鯛ははっちゃけ尾が跳ねる	青木輝子
人間にたぶらかされし室の花	青木輝子
あれ忘れこれも忘るる冬至かな	赤瀬川至安
十二月八日珈琲はアメリカン	赤瀬川至安
小結に引退迫る木の葉髪	赤瀬川至安
色々な色惜しみつつ草枯れる	井口夏子
氷柱には凶器の心折りとらむ	井口夏子
埋もれて助け呼んでる雪女	池田亮二
百鬼夜行一鬼はおれか白い闇	池田亮二
黒豆の軟らか過ぎて年用意	石塚柚彩
お供への一つが消ゆる鐘楼堂	石塚柚彩
七草をやうやく言へて粥啜る	石塚柚彩
極楽のやうと母云ふクリスマス	伊藤浩睦
この壺は先祖の崇りクリスマス	伊藤浩睦
実南天南の窓から飛んで来た	稲沢進一
冬の蠅何かを頼ることもなく	稲沢進一
豊作や農を継ぐものつがぬもの	稲沢進一
本音がチラリ初メールより初電話	稲葉純子
病み上がりに一石二鳥七日粥	稲葉純子
リード引き犬の尿(いばり)や仏の座	井野ひろみ
ご隠居のユニホームとなりちゃんちゃんこ	井野ひろみ
参道を食べ歩きして初詣	井野ひろみ
携帯から視線を奪ふ渡り鳥	上山美穂
大小は個人情報しめ飾り	上山美穂
庭の灯りはレモンの黄色冬の夜	梅野光子
大年の伊佐爾波の階段のぼりきる	梅野光子
棘のない風連れ歩く冬の町	梅野光子
年明けてすぐに二月にうさぎ跳び	遠藤真太郎
辛すぎて声も出せないキムチ鍋	遠藤真太郎
ものの芽を出す太陽光のエネルギー	遠藤真太郎
ひと仕事おへすつぴんの枯枝は	大林和代
冬うらら赤子の目にはみなシニア	大林和代

しきたりのあれこれ失せし松の内
 この平和いつまで続くお正月
 自粛のお酒正月に飲み放題
 地下室の水泳部員の花歌留多
 終活になり損ねたり賀状書く
 二日灸多めに据えられ午前様
 焼海苔の歯切れ楽しむ前歯かな
 栓抜きが揉み器に進化冬の夜
 寒がりの猫舌つらい鍋うまい
 屋台すら知らぬ子どもとおでん食べ
 三が日狸寝入りと決め込んで
 これからは祝宴の日々狸汁
 舌禍してリセットできぬ年の暮
 冬の日の夫婦の谷間に木のベンチ
 初潮に乗り損ねたるサーファー
 こし餡の塩餅に満つ淑気かな
 雑踏をゆく迷彩の冬帽子
 万両の足元ばかり照らしをり
 生活の音のカタコト初音
 父から母へ真紅の心冬薔薇
 試し掘り甘藷ゴロゴロ地球から
 手を繋ぎイエローカーペット踏む金婚式
 鮭遡上密の婚活命懸け
 診察の予約済ませて煤逃す
 見栄張って禁酒禁煙忘年会
 煩惱を洗い流して初鏡
 親方と巡業先の焚火かな
 戦場の壁の風刺画蝶凍つる
 犬のグッズ棚すでに冬色
 ウクライナは寒かった朝の月
 もう一人の私杖を選んでいた
 黄泉路から呼び戻さるる神有月
 女子ゴルフのミニスカートや冬温し
 公達の顔で横笛里神楽
 お年玉ほしくて酌をする子かな
 初句会着物新調句は古し
 睦む家の障子通れぬ隙間風
 節分の晩酌に飲む「鬼ごろし」

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 加藤潤子
 加藤潤子
 木村 浩
 木村 浩
 木村 浩
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 壽命秀次
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 鈴木洋子
 鈴木洋子
 鈴木洋子
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高須賀溪山
 高須賀溪山
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男
 竹下和宏
 竹下和宏

ひたすらにただ拝みたき初日の出	田中 勇
冬帝の器の大きさ測りたき	田中 勇
横たはり生ける屍日向ぼこ	田中 勇
氷上に穴を掘りたるバレリーナ	田中やすあき
自販機のホット選びし雪女郎	田中やすあき
地吹雪や座敷わらしの寝小便	田中やすあき
良く食べて良く寝て食べて寝正月	谷本 宴
小正月プログラミングゲームする	谷本 宴
女正月見返り美人は何を見る	谷本 宴
願ひ事変へて四社へ初詣	田村米生
雪の朝南だけ向く風見鶏	田村米生
曇天にため息をつく干大根	田村米生
所用無く討ち入りの日に家に居る	月城花風
張りのあるサンタクロスの指の先	月城花風
福引に当たりの予感根拠無く	月城花風
屠蘇散で悪疫退散長寿国	土屋泰山
俵数值上げで減りし宝船	土屋泰山
合戦のない歌合戦大晦日	土屋泰山
春近しあやかりたしや猫の恋	堤 宏文
日向ぼこ重ねる手と手幸永遠に	堤 宏文
写メールにあれど初日や手を合わす	坪田節子
藪柑子をいけて料理のめでたけれ	坪田節子
枯れ色の野に直立の水仙花	坪田節子
笹啼やある日突然ホーホケキョ	長井知則
初雪やへっぴり腰のちゃんちゃんこ	長井知則
雪景色雲の切れ間の石鎚の	長井知則
肱川の河口広げて冬日差	名本敦子
風に揺れ人影にゆれ繭団子	名本敦子
双鶴の舞ふ床の間の淑気かな	名本敦子
哲学者の貌でありけり枯蠶螂	西野周次
群を抜く暴挙皇帝ダリア咲く	西野周次
雪達磨途方に暮るる夕まぐれ	西野周次
初夢の復習二度寝の言い訳に	花岡直樹
ノーサイドお屠蘇とビール仲良しに	花岡直樹
春告魚魚に非ずとはなぜに	浜田イツミ
三方に載る大根の器量よし	浜田イツミ

ふらここや親子しだいにすれ違ふ
 東の間を土筆帝国栄華なる
 花苗に窒素燐酸加里愛語
 無職の子幾つになつてもお年玉
 冬の蠅猫の手先にあやつられ
 欲張りな一年の計を元旦に
 二日には一年の計を微調整
 元旦の計三日には坊主かな
 寒風や自転車漕ぐも喘ぐ足
 灯油高早寝遅起き去年今年
 目覚めれば未だ生きている冬の朝
 ハンサムも若さも仲間初句会
 市議会議員落ちたる彼も餅を搗く
 いつからか頂く側にお年玉
 酩酊の底のゆらゆら雪女郎
 頬杖の角度冬天見る角度
 ガキ大将をらぬ放課後日脚伸ぶ
 鬢付けの香は寒風を肩透かし
 仕舞湯が長子の初湯大家族
 雪化粧して有刺鉄線らしからぬ
 雑魚寝して八百屋お七に逢ひに行く
 お歳暮のSDGS着払ひ
 プーチンの呪ひの仮面ハローウィン
 減反を天は認めず稲の秋
 どんど焼き達磨の目にも涙かな
 白紙で挑む今日が今年の初句会
 除夜の鐘年端もいかぬ子も撞かせ
 パン焼き機なのにお餅の搗き上手
 借りたものすべて返して小晦日
 へたもあり結昆布の結び方
 三が日ぐらい来ればいいのに嫁が君
 空風に細い目をした地藏かな
 粕汁で締めるつもりが案の定
 天然の寒鯉かな目をそらす
 大マスクしてもあくびの感染す
 地球上放し飼ひされ寝正月

東 麗子
 東 麗子
 東 麗子
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 ほりもとちか
 ほりもとちか
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生

奔放な寒気吹き込むわが古家

ストーブの番司る眠り猫

案の定煮こごり落とす酔つばらい

軽トラの荷台に鎮座松飾

パジャマからパジャマに着替え寝正月

ヒーターがキュウキュウユと鳴く夜中

柚子の湯の柚子は吉事(よごと)のごときかな

一年の吉事(よごと)につかる柚子湯かな

新年を暫し堰き止め開門奉仕

無理をして広場で冬の流れ星

流星は見えず子たちは鬼ごっこ

養生中これって何の木冬の園

黙食を強ふる八十路の雑煮かな

年毎に不要不急のぼち袋

メール来る絵文字ばかりの年賀状

エゴイスト初日の出まで独り占め

鑑賞や立体アートの柿花火

金輪際出どころ吐かぬ寒蜆

生き堪へて初湯になぞる生命線

群れたがる人と距離おく初詣

竜の子がほら火を吐くよ花アロエ

出不精や蜜柑の皮を積み上げて

コロナ禍や鼻毛の伸びて大嚏

落葉降り傷みし大地眠らせる

おやつには焼芋が一番昭和の子

乙女らと喜寿もはしゃいで去年今年

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山内 更

山下正純

山下正純

山下正純

山本 賜

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子